

令和5年度第1回魅力ある農業・農山村づくり検討委員会 議事録

1 日時 令和5年8月17日（木）13時30分～16時17分

2 場所 さいたま共済会館 505会議室

3 出席者

(1) 委員（敬称略）

西村拓、原美登里、横田富美子、豊増洋右

(2) 県

横塚農林部長、吉田農村整備課長（以下「農整課長」）、小川農産物安全課長（以下「農安課長」）

(3) 事務局

農業ビジネス支援課（飯野副課長、阿部主幹、蟻塚主任、江崎主事）

農村整備課（塚本副課長、高橋主幹、川鍋主任）

農産物安全課（山田主幹、亀有主査、荒川主事）

4 主催 埼玉県

5 概要

(1) 開会 飯野副課長

(2) あいさつ 横塚農林部長、西村会長

(3) 報告 令和4年度事業実績及び令和5年度事業概要について

ア 多面的機能支援事業について【資料1】（説明者：農整課長）

委員 多面的機能支援事業とは場整備事業の違いは。

農整課長 ほ場整備事業は、農地の区画を拡大するなどの農業生産環境を整える事業となる。多面的機能支援事業は、草刈りなどで農村環境を維持していく活動を支援する事業となる。

委員 多面的機能支援事業では、地域にどのような支援があるのか。

農整課長 草刈りや泥上げの共同活動に必要な資材費用や日当代などが支援される。

また、農村の住民だけではなく、都市的住民なども参加して地域を守っていただく事業となる。

委員 高齢化が進行しているため、多面的機能支援事業だけでなく、ほ場整備事業も含めて、申請をしてから事業が始められるまで速やかに行っていただきたい。

農整課長 貴重な御意見として承る。

委員 2点伺いたい。

1点目は研修会を行ったとあるが、具体的にどのような内容の研修を行ったのか。

2点目は優良事例の表彰活動は、どのような基準で表彰を行っているのか。

事務局 1点目の研修会について、市町村の新任担当者に向けた研修会と活動組織に向けた研修会を実施した。

市町村の新任担当者に向けた研修会では、事務手続き上の留意点についての研修を実施した。

また、活動組織向けの研修会は昨年度の11月に実施しており、内容としては草刈り機などの機械の安全管理についての研修を実施した。

今年度も研修会は実施を予定しており、組織の事務・運営についての研修を予定している。

2点目の優良事例表彰は、毎年度実施しており、8組織表彰している。いくつか表彰基準はあり、農地維持や農村環境保全活動において地域で創意工夫がなされているかなどがある。

委員 事務や運営の研修は市町村に対しての研修か。

事務局 活動組織に対しての研修となる。

当該研修は、活動組織が活動5年間の中で必ず受講しなければならないもので、今年度実施予定としている。

委員 埼玉県内1か所で開催して、活動組織の方が集まるという認識でよいか。

事務局 おっしゃるとおり。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は県内3か所に分けて研修会を実施する予定となっている。

委員 優良事例表彰は、どこかのホームページに掲載されているか。

事務局 埼玉県多面的機能支援推進会議のホームページに掲載をしている。URLは資料1に掲載をさせていただいている。

イ 環境保全型農業直接支払事業について【資料2】(説明者：農安課長)

委員 環境保全型農業直接支払交付金の利用実績が、前年比18%増加というのは、全国的に見ても多い方ではないかと思う。増加の要因について、どのように分析あるいは把握しているか。

農安課長 本県における増加要因の一つは、有機農業の拡大が考えられる。有機農業については、県としても推進しているところではあるが、農家の方による従来からの取組が拡大していったことが増加の主な要因と考えている。

事務局 資料にて御説明したとおり、埼玉県では有機農業とカバークロップの取組面積が大きく増加した。それぞれの取組において、前年度より大きく取組面積が増加した市町村をとおして、増加の主な理由を聞きとったので、内容を御紹介する。

カバークロップについては、1年間の活動により技術や知識が習得され、

新規就農者への指導がしやすくなったことが取組面積の増加につながった
とのことである。

有機農業については、従来から有機農業を行っていた農業者の方に農地が
集約されたこと、また、取引先で有機農産物の需要が高まっているという事
情があり、取組面積が増加したとのことである。

委 員 つまり、取り組んだ生産者の戸数も増えているが、取り組んだ生産者の
面積の拡大に本事業は貢献していたという理解もできるか。

事 務 局 そのとおりである。

委 員 分布図があると、地域別の取組内容や作物区分別の取組割合に関して、埼
玉県内のどの地域で、どの取組に特化しているかが分かる。

資料では埼玉県全体の作物区分を面積で示しているが、どの取組で行われ
ているかが分かると、今後の展開も見えてきやすくなると思うがいかがか。

農安課長 現時点で地域別の取組や作物別の取組内容を整理した資料がない。今後
については、地域別、作物別の取組を整理し、分析を進めた上で取組を推進し
ていく。

ウ 中山間地域等直接支払事業について【資料3】(説明者：事務局)

エ 中山間地域ふるさと事業について【資料4】(説明者：事務局)

委 員 中山間地域ふるさと事業のうち住民活動支援事業の実施事例は、過去の取
組を含めると、報告資料に記載されているものの他にも何事例かあるのか。

事 務 局 当該事業は平成10年度から始まり、19事例程度ある。

委 員 過去の事例はまとめてホームページ等で閲覧できたりするのか。

事 務 局 ホームページでは全ての事例が掲載されているわけではない。近年の事例
は掲載しなければいけないと考えているところであり、掲載を検討していき
たい。

委 員 地域の活性化に向け、どういう産品で地域おこしをするのか、何をやれば良
いかわからないという方が結構多いと思う。こうした人達が参考にできるよ
う、住民活動支援事業の実施事例を集めたリストや事例集みたいなものがあれ
ば良いと思う。

事 務 局 前向きに検討していく。

(4) 議事 多面的機能支払交付金の施策評価について【資料5】(説明者：農整課長)

委 員 施策評価報告書(案)で浮き彫りとなった課題である組織の高齢化について、
若手の育成等の具体的な取組が盛り込めると良いと感じた。

若い世代が役員を担えるよう外部から働きかける必要がある。若い世代がリ
ーダーシップを発揮できる環境を整えば、デジタル技術の活用などの課題も解
決に進むのではないか。

そのため、中間支援組織として県や市町村が推進し、先進地域の視察や優良事例の展開が必要になっていくと思われる。

議長 世代交代を促進するためのインセンティブなどの働きかけができないかということか。

委員 そのとおり。世代交代を進めることで、教育機関との連携なども進むのではないか。若い人が手を上げやすい雰囲気づくりが大切である。

農整課長 どの組織も高齢化について悩んでいるのが現状である。

これに対し、どのような支援ができるか具体的な方法がまだ見つからない状況となっている。

他県では企業や大学生と農村をマッチングさせる事業もあると伺っている。そもそも農村地域に人が少なくなっていることに対する支援も参考にしていきたい。

議長 国への提案で世代交代がうまくいっている事例などの事例集の作成を盛り込むのはいかがか。国の方でそういった事例集を既に作成済みか。

事務局 全国的にも事例はまだ少なく、事例集はない。

委員 県内でも地域により特色や偏りがあると思われるため、地域ごとの丁寧な分析が必要だと思う。各地域の事例を収集し、検討すると良いと思われる。

農整課長 地域ごとの良い事例を集められるよう、今後推進を行っていきたい。

議長 デジタル技術の活用では経費の心配をしているが、他事業を含めてデジタル技術の活用を補助する事業はあるのか。

農整課長 スマート農業について、国は力を入れている。しかし、一般の方が個人で活用できるような補助事業の情報は得られていない。

(5) その他

総括質疑・意見等

委員 今年度から本庄市が中山間地域ふるさと事業の住民活動支援事業を実施していると先ほど報告があった。本庄市は、組織がしっかりしており、農業地域でもある。どういう支援を必要として当該事業を実施しているのか。

事務局 本庄市では、観光施設や交流施設を活用して、都市住民を呼びこみ、関係人口を増やしていくことを課題としている。こうしたことから、既存施設を、外から人を呼び込むための交流拠点とする取組を検討しており、そのための調査や地域住民による話し合いなどを調査研究で実施している。

委員 本庄市のように農業が盛んな自治体でも、住民活動支援事業を活用し、新しいことに取り組んでいく必要があるのか。

事務局 事業実施地域は、本庄市の中でも、秋平など中山間地域に限定される。地域内の観光施設の整備のほか、耕作放棄地対策の取組も課題となっており、

そのために住民による話し合い等を進めていくところである。

委員 未来に向かって新たな取組を行う良い事例を聞くことができた。

委員 環境保全型直接支払交付金の申請状況の中で、堆肥の取組の割合がすごく少ない。有機農業の取組の方が敷居が高いと感じるが、何か背景があれば教えていただきたい。

農安課長 これまでは堆肥の取組をされている方が少なかったが、現状、化学肥料が高騰しており、堆肥の施用には土壌改良の意味合いもあるため、今後、取組が伸びていくと考えている。

(6) 閉会